「大学体育スポーツ学研究（第22巻）」優秀論文賞
選考経過および講評

Ⅰ．選考経過

1．選考対象となる論文

2025年３月公刊の「大学体育スポーツ学研究（第22巻）」に掲載された論文６編（論文の種類：研究ノート）を優秀論文賞の選考対象とした.

2．選考委員（敬称略）

第１次選考委員：西田順一，難波秀行，園部　豊，梶田和宏，佐藤　和，霜鳥駿太，高田大輔，田原亮二，
西垣景太，平工志穂，小林雄志，山本浩二（以上，本誌編集委員）
なお，著者（筆頭または共著）として論文掲載のある委員（木内敦詞，藤野和樹）については，
第１次選考委員から除外した.

第２次選考委員：園部　豊（委員長），西田順一（幹事），難波秀行（幹事），
鈴木久雄（前年受賞者），寺岡英晋（前々年受賞者），中島弘毅（関東支部長），
三本木温（東北支部長）

3．選考結果

第１次選考では，本誌編集委員によって優秀論文賞として相応しい上位２編が推薦された．推薦された論文に付された点数（１位を２点，２位を１点）を集計し，上位２編を第２次選考の対象とした．第２次選考では，選考委員が対象論文について量的・質的評定を行った．その結果に基づき，最終的に以下１編を優秀論文賞の受賞論文として，本連合常務理事会へ上申し，承認された.

受賞論文

スポーツチャンバラを教材とした大学体育授業は共感性を向上させるか：
球技科目及び講義科目受講者との比較による事例研究
著者：川井良介，菅野慎太郎，阿部剣征
掲載：大学体育スポーツ学研究，22：59-69，2025年３月

Ⅱ．講評

本研究は，スポーツチャンバラを教材とした大学体育授業が，受講者の共感性を向上させるという仮説を検証したものである．対象者は，2023年度前学期に開講された健康・スポーツ教育実習（スポーツチャンバラ）を受講した学生（スポチャン群）と，健康・スポーツ教育実習の球技種目を受講した学生（球技群）と，健康・スポーツ教育論を受講した学生（講義群）であった．各群の対象者が獲得した成果を検証するために，「多次元共感性尺度10項目短縮版（MES-SF）」を質問紙として使用した．調査時期は，第１回と第15回の授業後であった．分析対象は，スポチャン群38名，球技群111名，講義群63名であった．統計分析では，３つの授業群を対象者間要因，２つの時間を対象者内要因とする２要因分散分析が用いられた．その結果，MES-SF の，「他者指向的反応」，「視点取得」因子が，スポチャン群において授業前よりも授業後に有意な向上が認められた．以上から，スポーツチャンバラの授業を受講することにより，相手の気持ちを考えることや，相手の視点に立って考えるといった共感性が向上することが示唆された．特に「視点取得」においては，授業後にスポチャン群が講義群と比較して有意な高値を示しており，実技科目の受講自体が他者の視点に立って考える共感性を向上させることを実証した．また，球技群との間に有意差を認めなかった結果は，スポーツチャンバラという教材が期待される学習成果をあげていることを示唆している．

本研究は，大学生のコミュニケーション能力の低さや，対人緊張に起因するメンタルヘルスの悪化が顕在化するなか，スポーツチャンバラを教材とした大学体育授業がその解決策の一端を担い得るかを検証した，事例研究である．多様化する学生層の他者理解と対人関係の基礎となる「共感性」に焦点を当てた研究テーマは，教育現場の喫緊のニーズに応えるものである．著者は，スポーツチャンバラが持つ相手との打ち合いや駆け引きといった独特の種目特性に着目し，効果検証を行った．精密な研究デザインや統計処理が行われ，スポーツチャンバラを通じ社会的スキルの側面とも捉えられる共感性を育成できる可能性を明確に示した．大学体育の教育的価値を拡張する試みとして高く評価した．

本研究は介入直後の効果検証にとどまっており，得られた共感性向上の効果が長期的に持続するのかどうかは，今後の継続的な検証が待たれる課題ではあるが，大学体育の有益性を心理社会的な側面から裏付け，教育の質の保証に向けた重要な一歩であり，今後の大学体育教育の発展，ひいてはスポーツチャンバラの普及・発展にも貢献し得る，学術的価値の高い論文であると認められる．以上より，本誌第22巻における優秀論文賞に相応しい論文であると判断した．

以　上